

医学系研究に関する情報公開文書

| | |
|---------|--|
| 研究課題名 | 上葉優位型肺線維症 (pleuroparenchymal fibroelastosis) の臨床・病理・画像解析 |
| 研究責任者 | 中村祐太郎 |
| 研究機関名 | 浜松医科大学 内科学第2講座 |
| 研究目的と意義 | <p>慢性経過をたどる原因不明の肺線維症は通常両側下肺野に優勢な病変を作ることが多いのですが、上葉に主たる線維化病変が存在する上葉優位型線維症は 1960 年代より散発的に報告されています。わが国では 1992 年 網谷らにより上葉限局型肺線維症の概念が発表され、それが徐々に浸透しました。一方英語圏では、2004 年に Becker らがその組織学的特徴に注目し、pleuroparenchymal fibroelastosis (PPFE) と命名し発表しました。両者は組織学的特徴を共通項としていますが、上葉に限局する例、上葉から隣接する葉に連続的に線維化が進展する例、上記の病変とは離れた下葉にも病変を有する例などをどう取り扱うか、その異同をめぐる様々な見解があります。わが国の症例の特徴を全国的に調査する試みがこれまでいくつかなされてきましたが、いまだ全国規模の調査に基づくわが国の知見を英語圏の国々に発信できていません。本症は稀な疾患であり、1 施設で経験する症例はごく限られています。今回、2015 年 10 月 17 日の東京びまん性肺疾患研究会において、福岡大学病院呼吸器内科が事務局となり、全国で 59 症例を集積しました。本研究では各症例の臨床および画像経過を調査することで、それら一群の臨床的特徴や予後が明らかになると考えています。</p> |
| 研究期間 | 西暦 2016 年 7 月 (倫理委員会承認後) ~ 2017 年 3 月 |
| 研究方法 | <p>2011 年 1 月 1 日から 2015 年 12 月 31 日の間に外科的肺生検によって PPFE と確定診断した当科の症例を抽出し、臨床経過、CT 画像、肺病理組織標本を検討資料としてまとめます。調査検討項目は、患者背景 (年齢、性別、MRC grade (呼吸困難スケール)、喫煙歴、粉塵曝露歴、併存疾患、呼吸機能 (%FVC, %DLco, %RV/TLC)、血液検査所見 (PaO₂, KL-6, SP-D)、予後、画像情報 (胸部レントゲン画像、CT 画像)、病情報 (肺組織) です。本研究では、新たな資料の提供は必要ありません。多施設から集積されたデータと共に、臨床的特徴や予後についての検討を行い、学会発表および論文発表を行います。</p> |
| 問い合わせ先 | <p>〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：内科学第二講座 (呼吸器内科) 担当者：中村祐太郎 TEL：053-435-2263 FAX：053-435-2354 E-mail：nakayuta@hama-med.ac.jp</p> |